

イエスはまなり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 187号

## 聖言(みことば)を食べる

(ヨハネによる福音書6章53～56節)

脇田 真一



若き日、私は信仰の確信がなく、自分は神の救いからはずされているのではなかろうかとよく思った。私の信仰の恩師が、そのような私の悩みを聞いて言われたことがある。「あなたはおいしい食べ物を舌の上に乗せて、食べ物の味を少しあじわって、プットその食べ物を外に吐き出している。食べ物は喉を通して飲み込んで始めて栄養になる。聖言を食べるといのは聖言を聞いて、それに従い、行動して行くことです。」と。また、「首から上の頭だけの信仰にならないように」(マルコ十四章三六節)と。その後、聖言を聞くと、それは神の言葉であるから、損をしても、得をしても一切気にしないと決断して、聖言に聞き、従って行動することにした。その結果が何日か或いは何月かたって現れて来た。そして、その結果は、私の夢想だにできなかったものであり、完全無比であった。神は生きておられると腹の底から言わずにはおれなかった。日常生活において、問題に出会うたびに、祈って与えられた聖言に聴き、従って行動することにした。このようなことを何年も繰り返して体験している中に、私は神の实在を心の底から信じられるようになった。聖言に聴き、従って、実際に行動して、始めて、聖言が私達のいのちになる。「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる」(ヨハネ福音書六章五四節)。ここで、血とか肉と言っているのは、聖言のことである。「わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である」(ヨハネ六章六三節)。聖言に聴き、従いにくいこともある。そのときには、祈りに祈って、私達も主イエス様が汗の滴り落ちる苦しみの祈りをされたゲッセマネの祈り、即ち「この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように」との祈りをわが祈りとさせて頂きたいと願います。主の御足の後に従わせて頂きたいと願います。私は癌を患って医師から死を宣告されたことがあったが、神に祈り、委ねてしまったとき、平安が与えられ、感謝にあふれたことがあり、神のなさるふしぎな御業に驚くと共に感謝を捧げた。

(日本キリスト教団 牧師)

## 霊 想



「主に望みをおく人生」

イザヤ書40章25～31節

新宿西教会 杉本 和生

第48回の城北アシュラムの主題は「私は山にむかつて目をあげる」である。御言葉は「わたしの助けはどこから来るであろうか。わが助けは、天と地を造られた主から来る。」と続くそこからイザヤ書の箇所が導かれた。

1、「26節…目を高く上げて、誰が天の万象を創造したかを見よ。」人間の頭で理解できる神は神でない。神は人に星空を眺めさせ、その天文学的数の前に人の小ささを悟らせると同時に全能の主の偉大さを思わせるのである。その神が「25節…お前たちは私を誰に似せ誰に比べようとするのか、と聖なる神は言われる。」と問われるのである。いったい、私たち人間の側にある問題とはどのようなものなのだろうか。問題は隣人にあるのだろうか。それとも自分自身にあるのだろうか。主はなんと

つておられるのだろうか。「27節…ヤコブよ、なぜ言うのか、イスラエルよ、なぜ断言するのか。私の道は主に隠されている、と。わたしの裁きは神に忘れられた、と。」私たちは神に自分の考えを理解してもらえないと断定しがちである。あなたは何を根拠にそう思ってしまうのだろうか。本当に全知全能の神を見ているだろうか。「28節あなたは知らないのか、聞いたことはないのか。主はとこしえにいます神。地の果てに及ぶすべてのものの造り主。」

「マタイ10…30には「人の髪の毛の数を神が数えている。」と（原語だと一本一本番号がついている）ある。神は全知である。イエスが湖上を歩かれたとき、ペテロも湖上を歩くことを申し出た。彼はイエスを見ていた時は波の上を歩けたが、波を見て怖くなって溺れた。人は自力では溺れてしまう。しかし、主イエスはすぐに助けて下さったのだ。神の許し

がなければ一羽の雀さえも地に落ちることはない。その全能の神が「目を高く上げなさい。あなたは、どこを見ている。全ての解決のカギを持っている私を見なさい。」と語られているのである。あなたは今どこを見ますか。今、全能なる主を見上げましょう。

2、「31節…主に望みをおく人は新たなる力を得る。」「30～31節…若者

も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れようが。走っても弱ることなく、歩いても疲れない。」

「待ち望む」の持つ意味は主を信頼し、期待し、主を仰ぎながら、沈黙の中で主の救いを待ち望むことである。たとえ、納得いかない事が置かれても、つぶやかず、静まり、沈黙しながらひたすら待つのである。

このような信仰姿勢を持つ者は、必ず「新しい力を得る」。何度も回復し、繰り返し立ち上がることができ。驚が、風の流れや空気の上昇気流をうまくとらえてその風力によって高く舞うように、主を信じる者たちは、自分の力でなく、人生における様々な向かい風（逆風）をうまくとらえて高く空に飛ぶことができ。この力が、主を待ち望む者に約束された恵み、主の慰めである。そして、その力は聖霊の力によるのである。「29節…疲れた者に、勢いのない者に力を与えられる。」

絶望のどん底の淵でも、神さまに期待する。答えがないとか、顧みられないというのでなく信じて祈り続ける（哀歌3…18～33）ことがポイントである。

私にも度重なる困難の中、祈りもできなくなり、個室にこもり主の前に何時間も泣いて聖書を開いたときイザヤ書40～41章から「決して、捨てない」と御言葉を頂いた。主の

御言葉に固く立った時、その後主は、万事を劇的に転換してくださった。だから、私たちは目を高く上げ、全知全能の神を仰ぎ、主を待ち望んでいきましょう。

## 立 証

「城北アシュラムの恵み」

牧ノ原キリスト教会

横山 政子



城北アシュラムについては、アシュラム誌や、関東アシュラムでのお交わりを通して知っておりましたが、遠隔地でもあり、今迄参加を考へるまでは至りませんでした。しかし、今回は、案内を頂いた事を機に、内なる願いがおこされ、主の導きを信じて、初めて参加させて頂きました。

願いの一つは、主人が参加を希望した事です。主人はここ二十二年間欠かさず関東アシュラムに参加しておりましたが、昨年は怪我の為参加出来ませんでした。でも、皆様のお祈りに支えられて、ほぼ全治にまで至りました。それで感謝の気持ちも

こめて、アシユラムの恵みにあずか  
らせて頂きたいと思った事です。  
もう、一つは、今回の主題「私  
は山に向かつて目をあげる」が、心  
に迫った事です。

私の今回のニードは、昨年の開  
東アシユラムでのニードと同じく、  
「全てを霊の働きにゆだねられるよ  
うに」という事でした。私達の教会  
では、一昨年以來、色々の問題をか  
かえ、ひたすら主に祈っていた折で  
したので、祈りの細胞でその事を話  
しましたところ、はからずも私と同  
じようなニードを持つておられる方  
とめぐり合ったのです。大きな励ま  
しと導きを頂きました。又、福音の  
時では、杉本姉を通して、「目を高  
くあげよ」と力強いメッセージを頂  
き、大いに励まされました。

今回私には、もう一つのニード  
がありました。それは、「私の内に  
宿るパリサイ人の罪」について祈っ  
て頂きたいという事でした。そし  
て、祈りの細胞で、隣の方や皆様に  
祈って頂きましたが、この事こそ、  
何より力となりました。

最後は、池の上キリスト教会を  
訪問したいと願っていた事です。開  
東アシユラムの会場を提供し、多く  
の支援をして下さっておられる山  
崎製パンの皆様が集まっておられ、  
開東アシユラムにも、いつも沢山の  
方々を送っておられるからです。

私達は今回、開始数十分前に池  
の上教会に着きました。そして、会  
堂の素晴らしさに見入っておりまし  
たところ、飯島御夫婦が見えられた  
ので、挨拶させて頂きました。その  
折、御夫婦のおっしゃられたのは  
「この教会はアシユラムの為に建て  
られたのです」との事でした。今回  
の城北アシユラムへの参加者は八十  
数名で、そのうち五十名近くは池の  
上教会の方々でした。まさに、池の  
上教会はアシユラムの実践の上に立  
つ教会である事を実感させられまし  
た。



### 第48回城北アシユラム報告

荒井 光夫

二〇一七年二月十一日(土)、池  
の上キリスト教会を会場として城  
北アシユラムが開催されました。  
「私は山に向かつて目を上げ  
る」を主題に掲げ、子供たち九名を  
含め八十九名が参加して行われま  
した。

最初のオリエンテーションで  
は、石井寛兄(池の上)からアシユ  
ラム全体の説明と注意が語られ、続  
く開心の時は、山口紀子師(更生)  
により詩篇六十二篇一〜八節が読  
まれ、われらの避け所である主の前  
に心を開くようお勧めがあり、皆さ  
んからニードの発表がありました。

その後、九つの祈りの細胞に分  
かれ、お互いにニードを分かち合い  
祈り合いました。  
主の前に重荷をおろして晴れ  
やかになった一同がチャペルに集

い、記念写真を撮った後は、コイノ  
ニアホールで美味しい食事を頂き  
ながら、親しい交わりと参加者の紹  
介が教会毎に行われました。  
午後の静聴の時は、千代崎備道  
師(池の上)により、IIコリント四  
章七〜十八節を黙読した後、皆さん  
から心に示されたみ言葉の発表が  
ありました。

続く福音の時は、中川美弥子姉  
(池の上)の司会で始まり、席上  
献金がささげられた後、杉本和生  
師(新宿西)が「主に望みをおく  
人生」(イザヤ書四十章二十五〜  
三十一節)と題して、問題や自分の  
弱さにとらわれるのではなく、解決  
を用意していただく創造主なる  
神を見上げる事、つぶやかず、  
沈黙しながら良くしてくださる主  
を待ち望む時に、主の慰め、新たな  
力が何度でも与えられることなど  
を、ご自分のお証しを交えて語って  
くださいました。

続く二回目祈りの細胞では、  
茶菓を頂きながらニードに対して  
導かれたみ言葉などを分かち合い  
祈り合いました。  
最後の充滿の時は、横山義孝師  
(東京新生)より、コロサイ書二章  
六〜十節からお勧めがあり、皆さん  
からその日に頂いた恵みや決意の  
発表がありました。そして、一同が  
輪になって賛美し、「イエスは主な

り」の唱和と祈りで終わりました。なお、子供たちの集会でもみ言葉に聴く時を持つことができ、大変良かったとの報告がありました。

神様ご自身がみ言葉をもって一人お一人に栄光をあらわしてくださったことを覚え、心から感謝いたします。

### 第23回東京新生教会

#### アシュラム報告

横山 勝よ



東京新生教会の第23回アシュラムは16年10月22(土)〜23(日)、西川口教会々員大野民子姉を立証者として恵みの内に持たれました。(1) 第一日午後3時より「開心の時」を横山義孝師助言のもと実

「アシュラム予告」の神戸母の家ベテルで行なわれるアシュラムは関西アシュラムの間違いです。

施されました。15名の参加。IIコリント3:12〜18が開かれ、助言者によって①イエス・キリストのみがクリスマスチャンアシュラムのゲル(指導者)であること、②アシュラムは協議会でも、研修会でもなく、「真実の意味で神の国になろうとする試みであること、③アシュラムは教派、年齢、階級人種、肩書等の垣根を取り外し、自己中心、罪責等の心の垣根を取り外すことであるとアシュラムの基本が語られ、祈りの内にこもこも、それぞれのニード(内的必要)を分かちあわれた。(2) 同4時よりは三つの「グループの祈り①」に分かれて、それぞれ座長の指示にとり、一人一人のより具体的なニードが語られ右隣の人がその為に祈りました。お互いの交わりがより親密に深められて行くのを覚え、幸いな交わりとなりました。

(3) 五時〜九時は各自が教会や自宅において自由静聴の時を持ちました。(4) 十時より翌23(日)朝7時までは連鎖祈禱の時です。あらかじめアシュラムの参加申し込みと同時に、各自一時間宛て夜の時間を自らの責任の祈り時間として登録し之を実行するのです。二日間のアブラハムの期間が祈りの霊によって満たされるようにとの願からです。指定された聖書のテキストを

15分読み、15分祈る時を持つなどを繰り返すのです。一時間はすぐ立ち2〜3時間と祈が続く場合が多いのをは素晴らしいことです。

(6) 翌23(日)朝九時四十分から十時二十分までは主任牧師による「静聴の時」です、Iペトロ五の七以下のテキストが牧師によって開設されたものが配布され黙想の後、20名余の参加者が分かち合いの時を持つ事ができました。

(7) 十時三十分より十一時四十五分まで主日公同礼拝。まず今回のゲスト立証者西川口教会の大野民子姉約十五分ご自身と家族の救い、同教会等のアシュラムに参加した恵みを語られ、感謝溢れる証しとなりました。続いて協力牧師横山義孝によって「まず神の国と神の義を」(マタイ6:25〜34)と題してメッセージが語られ、聖霊の注ぎ豊かな主日礼拝の時をもちました。(参加者二十六名) 感謝。(8) 礼拝後は十二時四十五分まで柳川孝子姉の司会により楽しい昼食の交わりの時、アシュラムは静かな交わりが中心ですが、この時は和気藹藹の交わりの時です。一人一人が与えられている日頃の神様による恵みを分かち合う幸いな時となりました。

(9) 続いて午後二時十五分までは「グループの祈り②」アシュラム参加で与えられた各自が感謝をこめ

更に霊的に深いニードを分かち合う時間として、貴重なよき祈りの時でした。(10) 最後に3時までの「充滿の時」は全プログラムの中で与えられた、悔い改めと十字架の赦し、愛と真実の交わりを短い時間でしたが、聖霊の充滿の恵みと共に分かち合うことよって、次の一年に向けての継続したアシュラムの交わりを御互に確認し合いつつ第23回アシュラムを終了しました。

### アシュラム予告

#### ●第51回 関東アシュラム

とき 17年9月17日(日)〜18日(月)

ところ 神戸母の家ベテル

助言者 関西聖書神学校長

鎌野善三師

#### ●第55回 関東アシュラム

とき 17年9月18日(月)〜20日(水)

ところ 山崎製パン箱根山荘

助言者 村瀬俊夫師

#### ●第9回 函館栄光アシュラム

とき 17年10月8日(日)〜9日(月)

助言者 島隆三師(東調布教会牧師)

横山 勝よ

〒一八一〇〇〇一 三鷹市井口3-15-6  
池の上キリスト教会内  
日本クリスチャン・アシュラム連盟  
振替口座 東京〇〇一〇〇一四四五八

有馬師  
横山 勝よ